

【国指定・重要文化財（建造物）】

いずみけじゅうたく

泉家住宅

おもて とおぐら くら

平成6年7月12日指定



■ 所在地 奄美市笠利町大字宇宿158

■ 所有者 個人

■ 特徴

奄美市笠利町の宇宿集落にある泉家住宅は、明治時代の初めに建てられた古い別棟型民家です。「おもて」とは座敷(ざしき)がある棟のことで、寄棟造・トタン葺で、トコをもつ八畳の座敷とそれを囲む3つの小さな部屋があります。「とおぐら」とは台所がある棟のことで、入母屋造・トタン葺で、2部屋あります。また敷地内には4本の円柱を持つ「くら」(高倉)や、サンゴの切石が積まれた井戸が残され、屋敷周囲には防風林が植えられた土塁がめぐらされています。奄美地方で明治時代に建てられ、現在も残る数少ない民家の一つで、「おもて」と「とおぐら」の両棟が高倉とともに残っている貴重なものです。